

2022年10月25日（火）【外為L a b】松田哲

タイトル：【政府（財務省）および日銀の介入】 & 【ECB理事会】

先週末（2022年10月21日）、ドル／円は、最高値を更新して、150.00を突破し、大きく上昇した。

今のところ（＝現時点での）高値は、151円台後半（151.90-95水準）を付けています。

++++  
++++

この最高値水準（＝151円台）から、政府（財務省）および日銀は、「ドル売り円買い」の為替介入を実施した模様。

時間帯は、東京市場を終えた海外市場での介入だったので、「委託介入」だった可能性もある。

（詳細は公表されておらず不明）

この「介入」で、ドル／円は146円台前半に大きく急落した。

先週末（2022年10月21日）のニューヨーク市場クローズは、147円台程度だった。

++++

昨日（2022年10月24日）の週明け月曜日の早朝（＝東京市場のオープン前）、ドル／円は、147円台から149円台に上昇した。

このタイミング（＝149円台）で、政府（財務省）および日銀は、再度、「ドル売り円買い」の為替介入を実施した模様。

この再度の「介入」で、ドル／円は大きく急落して、144円台を付けた模様。

しかし、その後のドル／円は、144円台から149円台に大きく反発（上昇）している。

++++  
++++

政府（財務省）および日銀が、「ドル売り円買い」の為替介入を実施しても、大局での「ドル高円安トレンド」を変えることはできない、と考えます。

++++

今、多くの市場参加者は、  
「是非、介入（＝ドル売り円買い介入）をして欲しい」  
「そうすれば（介入があれば）、安値で買えるから」  
と、「介入」を待っている状態、と考えます。

++++  
++++

そして、今週のトピックはECB理事会。

今週の木曜日（＝明後日の2022年10月27日）に、ECB理事会が予定されている。

この今月のECB理事会では、2回連続となる0.75%の利上げが確実視されている。

ECB（欧州中銀）の利上げは、さらに続くと予想できるが、欧州経済にはリセッション（景気後退）懸念があり、そして、家計の暖房費増加と住宅ローン返済負担増加を考慮すると、「ECBがどこまで利上げできるのか」にマーケット（市場参加者）の関心は移っている。

つまり、確実視される0.75%の利上げ発表後に、マーケット（外国為替市場）が、どのような反応を示すのか、に注目する必要がある、と考えます。

換言すれば、「その次以降のECB理事会で、利上げのペースが鈍化するか、否か」にマーケット（市場参加者）の関心は移っている、ということ。

最大限に注目しています。

++++  
++++

（2022年10月25日東京時間14：50記述）